HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	令和2年度北海道大学附属図書館外部評価報告書
Author(s)	北海道大学附属図書館
Relation	令和2年度北海道大学附属図書館外部評価報告書
Issue Date	2021-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80603
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	report
File Information	gaibuhyouka-hokokusho-2020.pdf,

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

令和２年度

北海道大学附属図書館
外 部 評 価 報 告 書

令和３年３月

北海道大学附属図書館

はじめに

今回の外部評価は、令和元年度にとりまとめた「北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書」をもとに、当館の活動全般について第三者の立場から客観的に評価・提言をいただく目的で実施したものである。平成 15 年度に初めて外部評価を実施し、今回は平成 26 年度に続いて、当館にとって 3 度目の実施となる。

令和 2 年度に外部評価を実施することは、早くから計画していたことであったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、一時は延期することを検討しなければならない状況にあった。しかし、感染防止のため一時的に閉館を余儀なくされる中でも、利用者と職員の安全確保を最優先にしながら、郵送サービスを実施するなど、図書館の活動そのものを継続することができたことから、予定通り外部評価を実施することとした。秋になり、札幌の感染状況が一時的に落ち着き、他都府県との往来が可能となったため、感染防止と安全確保に十分に留意して、北海道の内外から 5 名の有識者の皆さんを札幌にお迎えし、11 月 16 日（月）、附属図書館本館において外部評価委員会を開催した。札幌はすでに初雪を迎えていたが、当日は快晴とはいかないまでも寒さは少し和らぐ中、広大なキャンパスを分刻みで学内バス移動するなど、盛りだくさんなプログラムを予定どおり遂行できたことは幸いであった。

委員の方々には、事前に前述の自己点検・評価報告書を含め当館の活動に関する資料を精読いただいた。委員会当日は概要説明のあと、館内を回りながらサービス状況や感染防止対策などについて職員から説明を行い、主として学部学生が使う北図書館の視察を経て、活発な研究支援活動を行っている医系グループのプレゼンテーションをご覧いただいた。続く職員との懇談では、大学における図書館の学習支援や研究支援など多くの課題について意見交換を行った。その後およそ一か月をかけ、20 項目からなる「評価シート」に４段階の評価及び詳細なコメントを記入したものを各委員からご提出いただいた。

感染防止対策のため前回開催時より短時間での実施となったが、委員の皆さんからは的確かつ率直なご指摘・ご提言を数多くいただくことができた。当館としては、昨年度の自己点検評価の結果を踏まえ、改善すべき点は職員一同真摯に取り組んでいるところであったが、「北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）」や「連携（学内）（学外）」について高評価を得たことは、当館の得意分野として今後内外に誇れる事項として、職員の励みにもなることであろう。一方、「国際化への対応」や「利用者サービス」を中心に改善に取り組んでいくべき事項も多々あることもご指摘いただいた。内部の目では見えにくい点を、第三者の目から鮮やかにご指摘いただけたことは、外部評価の実施に大きな意義があったと考えており、本報告書は、今後の当館の改善のための貴重な資料として、職員一同で常に参照し、活用していきたい。

評価の詳細については、外部評価委員会の委員長を務めていただいた森仁志先生の総評

及び各委員からの評価シートのまとめに譲るが、厳しいコメントの中にも当館の将来への期待と温かな励ましを含めていただいたことに、当館の職員を代表して厚くお礼を申し上げたい。

最後に、通常の業務に加え新型コロナウイルス感染防止対策にも忙殺される中、今回の外部評価委員をお引き受けいただいた５名の委員の皆さまに心から感謝申し上げたい。

令和３年３月

北海道大学附属図書館長

山　本　文　彦

「令和２年度 北海道大学附属図書館外部評価報告書」目次

はじめに

目　次

Ⅰ　　外部評価委員会報告

１．総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２．項目別評価一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

３．「評価シート」まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・　10

Ⅱ　　記録資料

１．進捗記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

２．外部評価実施要領　・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

３．外部評価委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・　37

４．外部評価委員会事前配付資料一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・　38

５．実地視察場所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

６．外部評価委員会関係者名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・　40

７．外部評価委員会日程　・・・・・・・・・・・・・・・・・　41

８．外部評価委員会記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・　42

９．「評価シート」及び記入要項　・・・・・・・・・・・・・・・・・　48

１０．写真　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59

Ⅰ　外部評価委員会報告

１．総評

令和 2 年度北海道大学附属図書館外部評価は、外部評価委員 5 名により、事前送付資料による書面調査を経た上で、11 月 16 日（月）に現地調査が実施された。当日は、委員長に森を選出した後、図書館活動の概要に関するプレゼンテーション、施設見学、職員に対するインタビューなどを行った。その結果に基づき、各委員は「評価シート」を作成し、「教育学習支援」「研究支援」「連携」「社会貢献と国際化」「組織運営」の 5 領域に、令和元年度後半から社会の大きな課題となった感染症対策を追加した全 20 項目について評価とコメントを提出した。この総評は、評価シートのまとめをもとに、その骨子を要約したものである。

評価は各項目について 4 段階（非常に優れている＝3、良好である＝2、おおむね良好である＝1、不十分である＝0）で行ったが、ポイント換算による 20 項目全体の平均点は 2.2 であり、ほぼ「良好である」に相当する結果であった。特に評価が高かったのは「北海道大学学術成果コレクション（2.8)」、「連携（学内）（学外）(2.6)」、「地域・社会貢献（2.6)」、「図書資産の管理（2.6)」「感染症対策（2.6)」などであり、逆により一層の努力が求められたのは、「予算（1.4)」、「利用者サービス（1.6)」、「国際化への対応（1.6)」、「施設（1.8)」、などの項目である。以下では各評価項目について、委員からコメントのあった「優れている点」と「改善を必要とする点」について、主要な指摘を摘記しておきたい。

なお、各項目の評価は委員の立場・状況によって必ずしも同様の傾向を見せてはいない。しかし、これこそが外部評価を実施する意義であり多様な観点からのコメントが多く寄せられた点において、非常に意味のある、ある意味真っ当な外部評価となったと思う。

Ⅰ．教育学習支援

１．利用者サービス（1.6）

他大学に先行してプリント・ディスアビリティのある学生のための資料電子化サービスを試行し、現在正式サービスとして位置付けていること、平成 27 年にオープンした北図書館の西棟について会話ができるエリアの整備や、語学学習室・AV ブースを完備したことなどが高く評価された。また、医学部を始めとする図書館員の専門性を活かしたレファレンスサービスの充実ぶりも特筆に値する。改善を要する点としては、研究支援が特定の分野に偏っていること、情報リテラシーに対していっそう主体的な取り組みが必要なこと、蔵書の活用状況の評価などが挙げられた。また、時間外開館については、経済支援を考慮し学生の雇用を検討すべきとのコメントや貸出冊数の減少などへの対応も検討していくべきとの指摘があった。

２．蔵書管理（2.4）

総じて評価の高い項目であるが、優れている点としては、学生用図書費を特定経費化し

て財源を確保していること、目録データの遡及入力を終了したこと、学生推薦図書・図書館推薦図書の貸出回数が高いことなどが挙げられた。一方、改善を要する点としては、不用決定の遅れが原因のひとつと推察される書架の狭隘化、またそのことにより「古い本が多い」という印象を学生に与えてしまっていること、などの指摘があった。

３．学習環境（2.4）

アクティブラーニングフロアやサイレントフロア、グループ学習室・飲食可能なエリアなど、多様な目的に対応した環境を提供できていることは高く評価された。また、人的リソースが厳しく、かつコロナ禍でもある状況で平日の開館時間を 20 時まで確保している点も特筆に値する。改善点としては、集いたくなるような空間づくりの一環として、学生への周知のためのポスター掲示について美観的な配慮が必要であること、いっそうの無線 LAN 環境の改善や電源コンセントの増設が急務であるとの指摘があった。さらに、施設整備などのハード面だけでなく、職員のサポートなどのソフト面の支援を期待するコメントもあった。

Ⅱ．研究支援

１．学術研究コンテンツの整備（2.2）

限られた予算の中で、必要な電子ジャーナル・データベースの整備を着実に行っている点、バックファイルも計画的に購入している点などが高く評価された。また、APC の支払実態について早期から調査を行っていることも優れた点のひとつであるとのコメントがあった。改善を要する点としては、世界水準の研究大学を目指す上で電子ジャーナルはインフラであり、特定経費の増額要求をしていくべきであるとの指摘があった。また、特定経費化は財源を確保できる反面、各研究者の当事者意識が薄れていく面もあることに懸念があるとのコメントもあった。

２．北海道大学学術成果コレクション（2.8）

登録に関する作業体制も整っており、着実にコンテンツを増やしている。令和元年にはスペイン高等科学研究院によるランキングで世界 43 位（※全体数約 4,000）となるなど国際的な認知度も高め、大学の視認性の向上に貢献していることは特筆に値する。一方で、設置が早かったため HUSCAP のデザインに古さが感じられ、使い勝手も見直しが必要であること、実験結果などの研究データ収集に関しても国内外の動きと合わせて進めることが必要であるなどのコメントや、登録された論文が実際の投稿論文のうちどれだけ捕捉されているかのデータが見当たらないとの指摘があった。

３．オープンサイエンス（2.0）

オープンサイエンスに関して前向きな姿勢がまずは評価できる。具体的な取り組みとし

て、ワークショップでの情報共有や、学内研究者へのアンケート実施、GakuNin RDM の実証実験への参加などを行っており、研究データ管理への準備が着実に進んでいる。改善が必要な点としては、オープンサイエンスの文脈では貴重資料などの学術資源もその範疇とされていることから、重要文化財指定文書も含まれている北方資料については、デジタルアーカイブ化、画像のオープン化への転換を目指すべきとの意見があった。また、早期から取り組んできた大学として研究データ管理・公開ポリシーの策定が望まれるとのコメントもあった。

Ⅲ．連携

１．学内（2.6）

連携については全般的に評価が高かった。特に教育学習支援の際に学内のさまざまな部局と積極的に連携を進め、全学的な事業推進体制がとられている点が評価された。また、研究支援について URA ステーションとも情報交換を行っている点は高く評価したいとのコメントもあった。他方、教職員間のみでなく学生との協働について、過去に実績はあるものの継続的プログラムなどの工夫が必要との意見も寄せられた。

２．学外（2.6）

北海道地区のみならず全国レベルでも北大は基幹大学であり、果たすべき役割に応えている点が高く評価された。地区においては、リーダーシップを取ると同時に他の館種との交流も積極的に行っていること、全国においても積極的に参画されている点は特に優れている。海外の大学図書館との連携においては、北京大学やソウル大学などアジアの基幹大学との学術交流、学術資源の共同利用の取り組みが高く評価された。2018 年にオープンした札幌図書情報館は、貸出は行わないもののレファレンス能力の高い図書館として評価されており、社会貢献の側面からレファレンスなどの面で連携の余地があるのではないかとのコメントもあった。また、海外の大学との連携においては、従来は日本研究司書を窓口とした交流が中心だったが、これに加えより基幹的な大学との交流の可能性を模索する必要があるとの指摘があった。

Ⅳ．社会貢献と国際化

１．地域・社会貢献（2.6）

プレコロナにおいては、一般市民向けの閲覧・貸出サービスや、資料展示・講演会などが実施されており、この点は高く評価できる。また、北方資料データベースを公開していることも北大の価値を高めることに貢献していると考えられる。今後の課題としては、コロナ禍における学外者への対応が挙げられた。北大しか所蔵していない資料の提供のため、事前予約による出納貸出を再開するなどの検討が必要ではないかとの指摘があった。また、屯田兵や開拓団の記録など北大のユニークな資料についてはデジタル化して広く公開する

ことを希望する旨の意見もあった。

２．国際化への対応（1.6）

優れている点として、英語多読図書の充実や多読マラソンの実施、閲覧担当職員が英語研修に積極的に参加している点などが挙げられた。改善が必要な点としては、「利用案内」が日本語・英語のみであること、職員の英語スキルのさらなる向上、英語のインプットだけでなくアウトプットの企画があると、より効果が高まることが期待できると同時に、ユニークで意味のある取り組みになるのではないかとの指摘があった。

Ｖ．組織運営

１．組織（2.4）

今年度から副館長職が復帰したことは評価できる。近年は大学の理事・副学長が図書館長を兼ねており、図書館長をサポートする副館長の役割は重要になっている。平成 30 年度の研究支援課の設置と部局図書室のグループ化は、図書館が研究支援機能を強化していくことを館内外にアピールする上でも非常に優れた組織改編であり、他大学にとっても大いに参考になる事例である。人材育成について、係長登用時に学外機関への転出を原則としていること、積極的な道内の人事交流を行っていることも高く評価された。常勤職員の数が十分に維持されており、しっかりとした人材育成が行われている。ただし、今後研究支援機能を強化していくためには新たな人材確保・育成が重要であり、職員採用や人事異動の形を抜本的に見直すことが必要と思われる。他大学のモデルケースとなるような取り組みを期待したい。また、医系グループなどが持っているスキルについて、他の職員にも拡大する方法や、承継する仕組みについても検討が必要であるとのコメントもあった。各職員の資質と能力を見極め、ジェネラリストとスペシャリスト双方のバランスがとれた育成が望まれる。

２．予算（1.4）

学生用図書費や電子ジャーナル・データベースの購読費を特定経費として確保していることが高く評価された。課題としては、継続した経費確保のため、図書館の活動について学内への広報活動の強化が望まれるほか、他大学で実施されている特定基金やクラウドファンディングなど、自主財源の確保も必要な時期にきているのではないかとの指摘があった。

３．施設（1.8）

平成 26 年度に増築された本館は、多様な利用空間が生み出され、地元住民や観光客の行き来も多いキャンパスの中でも、大学の顔の一つとして存在感がある。自動化書庫、メディアコートなどは非常によく整備されている。アクティブラーニングフロアなどが整備さ

れた北図書館の西棟についても評価が高かった。一方で、北図書館は入学後に初めて利用する図書館でもあり、東棟の早期の改修を望む意見があった。また、海外の大学のように学生が集う場所には電源が十分に確保されているべきであり、メディアコートなどにも電源を増やすなどの工夫が必要ではないかとの指摘があった。

４．図書館情報システム（2.4）

平成 30 年度のシステム更新により、クラウドシステムへの移行、蔵書検索・ウェブサイトのレスポンシブウェブデザイン化が行われたことへの評価が高かった。北方資料データベースの資料全文公開は、学外研究者の利用などを通して地域貢献度も高い。改善点としては、学外との連携などを進めるにあたり、情報漏洩やサイバー攻撃へのセキュリティ対策を万全にする必要があり、そのための人的体制と予算確保が望まれる。

５．図書資産の管理（2.6）

特に改善が必要な点の指摘はなかった。担当の一元化により業務の効率化が図られ、計画どおり蔵書点検が実施されていることや亡失除却の実施や亡失に係る手続きが見直され、不明図書に対して適切な管理ができるようになっている点が高く評価された。

６．安全管理（2.0）

北海道胆振東部地震の経験を踏まえて「防災マニュアル」が整備され、防災訓練が行われている点が高く評価された。館内サインなども細かく設置され、防犯カメラの設置、職員による見回りなど図書館として出来ることは実施されている。改善点として、マニュアルには今後自然災害や感染症対策を含めていく必要があること、館内サインや利用者向けの注意喚起ポスターは見やすさや美観的な工夫があってもよいこと、盗難防止のために防犯カメラを増設した方が望ましいとの指摘があった。

７．広報（2.2）

学生向けの「楡蔭」は親しみやすいデザインで刊行頻度も適切であり、統計や活動報告をとりまとめた「附属図書館年報」を毎年公表し、今年度については感染症への対応をまとめた「新型コロナウイルス対応記録」を別冊として早々に作成していることも高く評価された。また、学生向けの Twitter アカウントの開設・運用やウェブサイトの英語での充実した発信も特筆すべき優れた取り組みである。課題としては、利用案内など紙媒体の利用実態の把握、本来のターゲット層と齟齬がみられる Facebook の運用などが挙げられた。特に Facebook については、利用状況の分析の結果によっては Twitter での発信に集中させるという判断も必要ではないかとの指摘もあった。

８．点検評価（2.0）

自己点検評価に加え、外部からの評価も受けるなど、積極的に取り組んでいることは高く評価できる。一方で、令和元年度に作成した自己点検・評価報告書では利用者アンケートも実施され傾聴すべき意見・要望が多かったにも関わらず、今回の職員との懇談などにおいてはそれらの課題への取り組みの意思が残念ながらあまり感じられなかった。報告書を作成して終わりではなく、それらを活用していく姿勢が各職員に必要と思われた。

ＶＩ．その他

１．感染症対策（2.6）

評価は全般的に高かった。感染防止策として、本館・北図書館入口への体表面温度監視カメラの設置・フロアへの消毒液の設置・定期的な換気・マスクの提供など、図書館として出来ることは十分実施できていると評価した。また、学生への情報提供やオンライン授業への対応として図書館公式 Twitter の開設、図書館利用動画の作成・公開、オンライン教材の作成・提供、職員による業務見直しプロジェクトの開始など、目に見えるかたちでも新たな取り組みを行ったことは特に高く評価したい。電子ブック拡充などに関する積極的な予算要求も適切であったと思われる。今後、気温が下がってくる中で、学生にとっての居場所も確保しながら換気などを適切に実施していくことが課題のひとつとなるであろう。

２．その他

特に医系グループの活動報告やそのプレゼンテーション、懇談を通じて各職員の意識が非常に高いと感じた。こうしたスキルは個人に蓄積されがちであるが、全体への還元の方法、また組織として継承していく体制を是非構築していって欲しい。さらに今後の図書館員の職務に関して自ら境界を設けることなく、図書館員の知見を武器に学内の他部署とも連携し、主体的に学生支援などに取り組んで欲しい。

今回はコロナ禍の中での外部評価となり、職員からの聞き取りなども、もう少し深い意見交換ができればさらに充実した評価となった可能性はある。しかし、こうした非常時において大学図書館とその職員がどのように考え、また実際にどう対応したのか、という新たな視点で見ることもできた。

全体的な印象としては、大学図書館にとって比重を増す「研究支援」に果敢に取り組んでおり、それに適した組織改編も実施済であることは国内で十分に先進的であり、他大学のモデルケースになるであろうと思われた。また、常勤職員数を確保できていることで職員同士の切磋琢磨、意識の高め合いが可能となっており、今後の大学図書館界を牽引する優れた人材を生む環境を構築できていることも評価したい。北海道大学は地域に深く関連

した貴重資料も多く所蔵し、これらを活かすことでさらに大きな社会貢献に繋がることが期待される。今後は海外の基幹大学とも肩を並べる機能と意欲をもって各業務の改善及びサービスの向上に取り組むことを期待したい。

最後になったが、今回の外部評価を円滑に進めるに当たって、先の見えない困難な状況が続いている中でも、山本館長、稲葉副館長をはじめ図書館職員の皆さまの多大なご尽力とご協力が得られたことに対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

令和３年３月

北海道大学附属図書館外部評価委員会

委員長　　森　　仁　志

２．項目別評価一覧

		非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	（平均点）
Ⅰ教育学習支援	1.利用者サービス		●●●	●●		1.6
	2.蔵書管理	●●	●●●			2.4
	3.学習環境	●●	●●●			2.4
Ⅱ研究支援	1.学術研究コンテンツの整備	●●	●●	●		2.2
	2.北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）	●●●●	●			2.8
	3.オープンサイエンス	●●	●	●●		2.0
Ⅲ連携	1.学内	●●●	●●			2.6
	2.学外	●●●	●●			2.6
Ⅳ社会貢献と国際化	1.地域・社会貢献	●●●	●●			2.6
	2.国際化への対応		●●●	●●		1.6
Ⅴ組織運営	1.組織	●●●	●	●		2.4
	2.予算		●●●	●	●	1.4
	3.施設		●●●●	●		1.8
	4.図書館情報システム	●●	●●●			2.4
	5.図書資産の管理	●●●	●●			2.6
	6.安全管理	●	●●●	●		2.0
	7.広報	●●	●●	●		2.2
	8.点検評価	●	●●●	●		2.0
Ⅶその他	1.感染症対策	●●●	●●			2.6

※平均点：ポイント換算による

（非常に優れている＝3、良好である＝2、おおむね良好である＝1、不十分である＝0）

※参考 前回（平成 26 年度）の評価一覧

		非常に優れている	良好である	おおむね良好である	不十分である	（平均点）
Ⅰ教育学習支援	1.利用者サービス	●	●●●	●		2.0
	2.蔵書管理	●●	●●●			2.4
	3.学習環境	●	●●●	●		2.0
Ⅱ研究支援	1.学術研究コンテンツの整備	●●	●●●			2.4
	2.研究支援としての情報リテラシー教育		●●	●●	●	1.2
	3.北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）	●●	●●●			2.4
	4.研究用図書の整備	●	●●	●●		1.8
Ⅲ連携	1.学内	●	●●	●	●	1.6
	2.学外		●●●	●	●	1.4
Ⅳ社会貢献と国際化	1.地域・社会貢献		●●●	●	●	1.4
	2.国際化への対応		●●●	●	●	1.4
Ⅴ組織運営	1.組織	●	●●	●●		1.8
	2.予算	●●	●●		●	2.0
	3.施設	●●	●	●●		2.0
	4.図書館情報システム	●●	●●●			2.4
	5.図書資産の管理	●	●●	●●		2.0
	6.安全管理	●	●●●	●		2.0
	7.広報	●	●●●		●	1.8
	8.点検評価	●	●	●●●		1.6

３.「評価シート」まとめ

Ⅰ　教育学習支援

１．利用者サービス

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　プリント・ディスアビリティのある学生のための資料電子化サービスを、他大学に先行して試行され、正式サービスとして位置付けられていることは素晴らしい。
・　英語多読図書、推薦図書、さらに学内 ILL と支援に学習に必要なサービスを実施しているが、web 語学管理システムの開発・導入や WG による試みなどをとおして 2 キャンパスの業務として位置づけられたこと。
・　北図書館に増築された西棟において、会話 OK の語学学習室やブースを完備している、２階のメディアルームに 35 台の AV ブースを設置、幅広い分野の DVD や映画が提供されているなど、図書・雑誌以外でのサービスも充実している点が高く評価できます。
・　医学部をはじめとするレファレンスサービス（研究支援）の充実度は非常に優れていると感じた。また、情報リテラシー教育の実施も優れていると感じた。
・　医系グループによる文献検索相談・代行サービスや、北キャンパス図書室での研究業績評価に関するセミナー等、個別のニーズに合わせた講習会やセミナーを精力的に実施している点も素晴らしいです。

【改善の必要がある点】

・　開館時間については学生から延長の要求はどこの大学でもあるだろう。職員の勤務時間外に関しては経費の問題から延長するとなれば、学生のアルバイトに依存するしか対応の仕方はないと感じる。
・　座席数を増加することは簡単にはできないが、学生からの希望があると言うことはとらえ方を変えれば、利用者が多いことを意味している。そう考えれば対処を前向きに考えざるを得ない。
・　時間外開館は業務委託により運用されており、その方が学生アルバイトよりも経費が抑制できるため、とのことだが、学生への経済的支援（特にコロナ禍で他のアルバイトの需要も減少している折でもある）や、教育的効果ということも踏まえて検討され

てはどうか。（※授業料免除学生を対象とした学内ワークスタディの枠で学生を雇用していることは承知している。）

- 蔵書とくに英語多読図書、指定図書、推薦図書などの活用状況について利用者側の視点からの評価を継続的に行う仕組みづくりがあっても良いのではないか。
- 利用者数や貸し出し冊数の減少への対応。
- 研究支援がある特定の分野のみに偏っている点。
- 医系グループによる研究支援（文献検索相談・代行サービス）自体は評価できるが、様々な研究科、研究分野からも同様な研究支援を要求されると、本来の図書館職員の業務に負担がかかる点が懸念される。依頼に境界線（図書館職員の知識がないと施行できない点など）をあらかじめ設けておいた方がいいような気がする。
- 特にラーニングコモンズなど、場所は提供しているがそれ以上でもそれ以下でも無い点が残念である。普段から利用者を間近で見ている図書館が主体的・積極的に LC における学習支援案を提案することが必要ではないか（もちろん学内での連携は行った上で）。
- 情報リテラシー講習会の回数と参加人数をみると、学生数の約 17%の利用にとどまっているのが懸念されます。コロナ禍でオンライン講習会をメインに実施していると思いますが、より多くの学生へのリーチを試みる工夫を期待します。

【その他コメント】

- 貸出冊数、GIF プロジェクト、学内 ILL やレファレンスサービスなどのサービスも件数の減少がみられるのに対してその原因を含めた調査分析が必要。

２．蔵書管理

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

- どのような課題も突き詰めるところ経費の問題に関わる。学生用図書費を特定経費化して安定財源にできた点は評価できる。但し、特定経費化したことは削減されないが、値上げに対して対応するかどうかは不安も残る。
- 図書資料費を特定経費化し、予算を確保している点。
- 学生用図書の貸出回数が前回調査より増加していること、学生用図書費を特定経費化することで、安定的な財源が担保されている点は高く評価できます。

・　北図書館の学生推薦図書及び図書館推薦図書の貸出回数（回転率？）の高さに注目した。
・　図書資料費の特定経費化を実現されたこと、本館・北図書館の選書を一本化されたこと、目録データの遡及入力を終了されたことについて評価できる。
・　蔵書の目録データの電子化。

【改善の必要がある点】

・　附属図書館は蔵書数が評価の対象になる上、蔵書数を増やすように取り組む一方で、収容に関しては狭隘化が問題となる。原則として重複図書の不用決定しか手立てはない。しかし、新刊、新図書を購入し続けるしかない。今後は電子書籍に移行することが一つの方策だと思うが、和書の場合はあまり多くない。個人的には狭隘化の元になる蔵書を PDF 化すれば物理的な場所は空けることができるが、ここで著作権が障害となる。営業活動をするわけではないから著作権を改正したいが、ハードルは高いだろう。
・　蔵書の整備に努力されているはずだが、利用者アンケートで「古い本が多い」との意見が多くみられるのが気になるところである。新刊書のアピールが必要ということであろうか。また、北図書館で書架スペースを超えた図書が収容されているということが、とりわけ古い本が目立って見えることに繋がっているのではないか。不用決定は煩雑な手続きが必要になる作業ではあるが、処理を加速すべきと推察される。
・　本館では、自動化書庫を導入されたにも関わらず、約 10 年で収容可能冊数が限界に近づいているのであれば、電子ジャーナルとの関係など、製本雑誌の保存のあり方を見直す時期に来ているということではないか。
・　蔵書については両館の一体的な構築が課題として挙がっているが、アンケートの調査などと照らし合わせそもそも各館の蔵書構成などの指針が学生にも明示され、利用行動と一致することが利用効率につながるものと感じた。
・　困難であるとは思うが、増加し続ける蔵書をどのように管理し続けていくかは、大きな課題である。なるべく蔵書を破棄しないで、それでいていつでも見られるようにするためにはどうすれば良いか？私も良い解決案を持っていない。
・　図書資料費は当面の間、特定経費化により確保されるとのこと、この間、学生の利用を促進させ、将来にわたって安定的に予算確保できる道筋をつけていくことが望まれます。

【その他コメント】

・　閉架の自動書架は圧巻であった。

３．学習環境

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

- 多様なニーズに応えられるように、ゾーニングを工夫されていることが評価できる。
- 閲覧室に目的別の個別空間を設けて利用目的に応じた閲覧席を確保している。
- アクティブラーニングフロアやオープンエリアなど、多様な学習活動に対応した設備がある点や、本来の「図書館」に求められるサイレントエリアの設置など、非常に優れた学習環境を提供していると考える。
- アクティブラーニングフロアやスタディフロア、グループ学習室や飲食可能なエリアなど、様々な目的に対応した環境を提供できている点が高く評価できます。また、厳しい人的リソースとコロナ禍の中、平日の開館時間を 20 時まで確保している点も評価できます。
- ICT 環境など整備されているようであるが、コロナ禍で利用者が少ない状況下では判断しにくかった。

【改善の必要がある点】

- コロナ禍を踏まえてハイブリッドな図書館への期待が高まる中で、無線 LAN 環境の改善や電源コンセントの増設は急務と考えられる。
- 無線 LAN の接続速度。
- 学部図書室などでもそうした空間（＊目的別の個別空間）を設置するなど閲覧席の拡充により密を避けるなどの工夫。
- （あえて）ハード面のみの整備を重視していると感じる。現場に一番近いという意味で、積極的に学習環境を利用できるよう、ソフト面での支援が期待される。
- 安全管理の項目でも述べていますが、全体的に館内のあちこちで様々なポスターがセロテープでべたべたと貼られている点が気になります。一部の最近話題の公共図書館（札幌図書情報館や CCC 運営の公共図書館など）とは目的が異なりますが、学生がより集いたくなる雰囲気づくりのため、美観的な面での工夫を期待します。

【その他コメント】

- 本館、北図書館など見学先においては十分な座席が用意されていると感じたが、広いキャンパス内で 2 館のみの対応では評価報告にもあるように学部学生数などからみて

繁忙期の座席不足は想定内であろう。

・　教育（学習支援）の専門家を交えて、学内各所と連携して支援を実施することが望ましい。「図書館主体」で実施してもいいのではないか？（もちろんラーニングサポート室と連携しながら）

Ⅱ　研究支援

１．学術研究コンテンツの整備

非常に優れている	●●
良好である	●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　（各種資料中に特段の記載は見受けられなかったが）学内における APC の支払実態について、早期から調査されていることは評価できる。

・　バックファイルの整備など継続的に情報資源の蓄積を行っている。

・　限られた予算の中で、必要な電子ジャーナル・データベースの整備をしっかりと実施している点。

・　ますます深刻さを極める学術雑誌高騰の制約の中、コンソーシアムを通じてベンダーとの粘り強い交渉を行い、グローバルな一流大学の水準を保つラインナップを維持している点が評価できます。

【改善の必要がある点】

・　学術研究推進にとっては、言うまでもなく電子ジャーナルの整備である。この課題は国内大学に限らず、世界的な重要問題であり、北大で改善できるほど簡単ではない。基本的な問題は出版社にあるが、ここで議論しても仕方がないが、附属図書館として出版社との交渉は重要である。一方、もう一つの交渉は大学執行部に特定経費増額を依頼することが重要である。特に理系にとって電子ジャーナルは重要であり、北大が世界水準の研究大学を目指すならば、研究のインフラといってもいい。

・　電子ジャーナル購入経費を特定経費化できた一方で、特定経費の上限が設定されたことで、タイトルの選定に苦慮されていることが推察されるが、現況においては打開策が見出せないのもやむを得ないと考える。ただ、特定経費化して部局負担をなくしたことにより、研究者としての当事者意識を奪うことになっていないか、懸念される。

・　道内外の学術研究のリードオフマンとしての役割を果たしていることを情報発信しな

がら予算の獲得などの一層の努力をすることが必要。

【その他コメント】

・ 電子ジャーナルの利用実績については、ダウンロード数を分析する以外に、（これは昔からある手法ですが）Web of Science を用いて北大所属の研究者が直近何年かの間に実際に何を引用したか分析を行う方法があります。新規タイトル追加の可否や購読中止の意思決定についてステークホルダーに説明できる材料をそろえておくのも一考です。手持ちのツールを用いての分析スキルを、できるだけ多くの職員の方が習得されることを期待します。

２．北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）

非常に優れている	●●●●
良好である	●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・ 安定的に機能しており、順調に研究成果を蓄積していくと思われる。
・ 他大学が次々とオープンアクセス方針を公表する中、HUSCAP 運用方針をもってそれに代替されてきたが、状況の変化に即して、研究成果を原則公開とする「北海道大学オープンアクセス方針」を策定するとの決断をされたことは評価できる。
・ 着実にコンテンツを収録しコレクションの拡大及び公開されている。
・ 収録文献数がコンスタントに増えており、提供依頼作業の体制も整い強化されている点が高く評価できます。また、令和元年にはスペイン高等科学研究院によるランキングで 43 位となるなど国際的にも認知度を高め、研究支援と合わせて大学の視認性の向上に貢献している点も素晴らしいです。

【改善の必要がある点】

・ 利用者アンケートにもコメントがあったが、早期に立ち上げられたため、HUSCAP のデザインが古く、使い勝手もいいとは言えないのはもったいないと感じる。

【その他コメント】

・ 実験結果・観測結果などのデータ類の収集は、課題としてあげることは必要であるが、研究分野によってデータ類は大きく異なり、具体的に実行する時に意外にハードルが高いと感じている。収集が可能な分野から始めるしか手順はないかもしれない。

・　実験結果や観測結果などのデータの収集に関して、国内外の大学の動きに合わせて進められると良いと感じる。文系などは、例えば観察記録など、公開できないものもあるので、その辺りの整理は必要ではないか。
・　2 週間ごとにデータを抽出し、教員へ提供依頼するという作業がしっかりルーチン化されており、それが部局図書室担当者にとって、所属教員の研究成果を把握するという相乗効果をもたらしていることも理解できるが、それによって紀要以外の学術論文がどれだけ捕捉されているか（費用対効果はどうか）を計るデータが見当たらないのは残念である。
・　研究データマネジメントについて、機関レポジトリが当初そうであったように、学内における効果的なコミュニケーションにより円滑にプロジェクトが進むことを期待します。

３．オープンサイエンス

非常に優れている	●●
良好である	●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】
・　オープンサイエンスに対する姿勢が前向きである。
・　研究データ管理について、ワークショップ等の学内における情報共有の機会を設け、学内研究者へのアンケートを実施し、GakuNin RDM の実証実験に参加するなど、検討・準備を進められてきたことについて評価できる。
・　平成 28 年度からオープンサイエンスに関する取り組みを行っている点、ワークショップやオンライン講座を通じて学内でも意見交換できる場を設けるなどの努力が評価できます。
・　シームレスな公開に向けた一層の定着が期待される。

【改善の必要がある点】
・　早期に取り組みを開始された貴学ならではの、研究データ管理・公開ポリシーの策定が望まれる。
・　また、オープンサイエンスの文脈では、研究データ管理だけでなく、貴重資料等の文化・学術資源もその範疇であるとされている。重要文化財指定文書も含まれる北方資料については、データベースからデジタルアーカイブ化、画像のオープン化への転換を目指すべきではないか。

・　北大にしかない、貴重な北方資料を、誰でも閲覧できるような形（高精細な画像等）でより広く公開すること。
・　今現在はまだ GakuNin RDM の実証実験が終了した段階であり、スキームを作った後、実際にデータを集め管理運営を行うのに学内当事者へどのように理解を促すか、データ管理のモチベーションをどう上げるかなど、コミュニケーションの上で課題が多いように思います。

【その他コメント】

・　HUSCAP も含めて、公開されている資料を一元的に検索したり閲覧したりできる仕組みがあると良い。ただ、この辺りはなんでも「システム導入」が必要になってしまうので、予算的な裏付けも必要になってくる。

Ⅲ　連携

１．学内

非常に優れている	●●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　教育学習支援に関する多くの組織と連携している姿勢、さらに今後も連携を継続する姿勢が評価できる。研究支援に関しては URA ステーションと連携することは重要であり、継続してほしい。
・　図書館が教育学習支援や研究支援を行う際には、学内関連部局との連携が不可欠であり、イベントの実施や日頃の情報共有・交換による連携が行われていることは評価できる。
・　学内の他部署との連携が幅広く実施され教育学習支援における図書館の役割が可視化されている。
・　学内の様々な部署と連携をとり、企画を行なっている点。
・　教育学習支援及び研究支援において、関連部署と積極的に連携・協力を行っている点が高く評価できます。とりわけ APC やオープンアクセス、オープンサイエンスや研究データ管理、ハゲタカジャーナルといった図書館との親和性が極めて高い内容について、URA ステーションと、適宜情報共有、情報交換を行っている点は素晴らしいです。

【改善の必要がある点】

・ 教職員間だけでなく学生との協働について、実績はあるが継続的プログラムなどの工夫が必要。
・ 図書館からイニシアチブをとり、積極的に企画をしても良いのではないか。何度か申し上げた通り、ラーニングコモンズなど、直接学生と接するからこそわかる部分もあると考える。

【その他コメント】

・ 職員との懇談・質疑応答において、他部局との連携事例で一部「縦割り」的な印象を受ける回答があったのは残念である。
・ 引き続き担当者の方同士での情報共有、関係強化を期待します。

２．学外

非常に優れている	●●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・ 北海道地区のみならず全国レベルでも北大は基幹大学であり、果たすべき役割に応えている点を評価したい。むしろ、役割に応えることが当然であるとさえ言える。
・ 北海道地区の大学図書館の基幹として、地区内のリーダーシップを取られていること、地区の他の館種とも交流が行われていること、全国的な活動にも積極的に参画され、大規模研究大学の図書館としての役割を果たされていることについて、高く評価できる。
・ 北海道では地域の基幹大学としての役割は他大学にはなし得ないものである。
・ 地域の基幹大学として周辺大学からの期待に応える活動を行っている点、また、全国的には、早くから機関リポジトリに取り組み他大学をけん引している点が大きく評価できます。
・ 海外の大学図書館との連携においては、北京大学やソウル大学などアジアの基幹大学との学術交流、学術資源の共同利用の取り組みが評価できます。
・ 図書館職員が積極的に学んでいることや、それが学外の組織との連携の中で生かされている点。

【改善の必要がある点】

・　欧米の海外大学との連携においては、今現在は図書館職員同士の人脈で、海外の日本研究司書の方々を窓口に連携を行っているようにお見受けします。日本のフラグシップである北海道大学としては、これに加えより基幹的な大学との交流の可能性を模索する必要があるように思います。そのためには職員の方々の英語コミュニケーション能力を高め、海外研修や国際会議などで幅広い人脈を積極的に構築するなどの取り組みも必要かと思います。

【その他コメント】

・　引き続きかつ積極的に担っていただきたい。
・　2018 年にオープンした札幌図書情報館が注目を集め、貸出は行わないがレファレンス能力の高い図書館として評価されています。社会貢献の側面からもレファレンスやレフェラルサービス等、連携の余地があるのではないでしょうか。

Ⅳ　社会連携と国際化

１．地域・社会貢献

非常に優れている	●●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　評価できる点は北方資料データベースの公開であり、このデータベースは北大の価値を高めるものであると考えたい。画像データの公開も進めてほしい。一方、一般市民への公開は評価が難しい。自己評価の課題にもコメントしているように、原則として大学附属図書館と公立図書館の目的の違いを、利用希望の市民にも周知することが必要であるが、周知の仕方は難しさを感じる。
・　（プレコロナにおいて）一般市民向け閲覧・貸出サービスや、一般市民にも開かれた資料展示・講演会等が実施されてきたことについて評価できる。
・　様々なテーマで公開の行事が行われている点。
・　職場体験の受け入れや一般市民への利用開放など、一定の地域貢献を行っている点が評価できます。

【改善の必要がある点】

・　今後、コロナ禍における学外者への対応が課題となるであろう。近隣の図書館では所蔵していないような資料提供のため、事前予約による出納貸出を再開するなどの検討が必要となるのではないか。
・　北方資料データベースについては、「Ⅱ　研究支援　３．オープンサイエンス」に記述したとおりである。
・　より広範囲な広報。

【その他コメント】

・　一定のテーマで発信をすることで持続性のあるものとなること、学内外においてその活動が可視化され工夫されることで地域貢献度が高まることを期待したい。
・　当日は質問できなかったが、北方資料の中には、アイヌをはじめとする先住民族だけではなく、屯田兵や開拓団などの記録もあると思うので、それらも含めて、インターネットなどを通して社会に広く公開することを望む。
・　コロナ禍で通常の利用開放ができない状況にあります。コロナ収束後のサービスの充実・向上を期待します。札幌図書情報館との連携協力で一般市民向けのイベント開催などが可能ではないでしょうか。

２．国際化への対応

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　長年、英語多読図書の充実・利用促進に努められてきたことは高く評価できる。
・　多読マラソンなど、学生の英語力を向上させる取り組み。
・　大学の国際化は喫緊の課題であり、大学ランキングにも大きく影響する部分でもあり、図書館による支援も非常に重要です。留学生支援の一環で閲覧担当職員が英語研修に積極的に参加している点、英語多読の取り組みとして、英語多読マラソンを実施している点、語学担当教員との協力で、豊富な教材を資料としてそろえている点が評価できます。

【改善の必要がある点】

・　国際化への対応＝英語力ではないが、サービス業務となると前向きな姿勢とは別に、

英語スキルによって影響がでると思われる。職員の英語スキルの向上を期待したい。

- 「利用案内」リーフレットが日本語・英語のみのようだが、貴学の留学生の半数以上を占める中国からの留学生のために、中国語も用意してはどうか。
- これだけの知財がある総合大学としてさらなる発信と国際貢献が求められる。
- 英語をアウトプットする作業を支援する取り組みがあると良いと感じる。
- 学生が一定レベルの英語を習得するためのサポートを行う上で、現在実施している多読の取り組みに加え、読んだ本のレビューを英語で書くなどのアウトプットにより力を入れることをお勧めします。外国語は「書く」「話す」といったアウトプットを筋トレのように継続して行うことが非常に有効で、この訓練があって初めて使えるようになります。多読は図書館には非常に親和性が高い活動ですが、読むインプットだけでは十分とは言い難く、これに英語書評マラソンのようなものを加えると、よりユニークで意味のある取り組みになるのではないでしょうか。

【その他コメント】

- 実際に多読マラソンをしている状況を観察できなかったのは残念であった。

Ⅴ　組織運営

１．組織

非常に優れている	●●●
良好である	●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

- 委員会、図書館職員の構成などに問題は感じられません。指摘した方がいい点は、今年度から副図書館長職が復帰した点を評価したい。正確に調査したわけではないが、全国の国立大学図書館長は独法化以降、大学執行部の理事・副学長が兼務している場合が多い。大学によって理事の業務量は異なるであろうが、図書館長をサポートする副図書館長の役割は重要であり、今後に期待できる。
- 平成 30 年度の研究支援課の設置と部局図書室のグループ化は、図書館が研究支援機能を強化していくことを館内外にアピールする上でも非常に優れた組織改編であり、他大学も大いに参考になる事例である。
- 係長への登用に際して、学外関連機関への転出を原則としていることや、道内外で積極的に人事交流を行っていること、若手・中堅職員が自発的に勉強会や研修会を実施

していることも評価できる。
- 正規職員数の多さは驚異的で、これだけの人数をキープできているというのは、大学から図書館の活動が評価されている証であるとも言えよう。
- 正規職員数も多く、しっかりと人材育成を行っている点。
- 他の旧帝大とも比較して常勤職員の割合が非常に高いこと、大学執行部から人件費の削減の話が特に出ていないこともこれまでの尽力の賜物であると感じます。また、部局図書室を研究支援課の元に配置し、全学的な研究支援機能が強化されている点も素晴らしいです。
- 組織体制がしっかりしている。

【改善の必要がある点】
- 今後、研究支援機能を強化していくためには、組織体制の整備にとどまらず、人材確保・育成が重要な鍵を握ることになる。これまでの職員採用や人事異動の形を抜本的に見直す必要が生じていると予想され、管理職を中心とした検討が望まれる。他大学のモデルケースとなるような取り組みを期待したい。
- 館長が大学執行部の一員であることのメリットはあると思うが、副館長制度がありながら館長が兼務することが常態化しているのであれば副館長は置かないなどの判断が必要である。一方でこの規模の図書館において副館長を置かない体制は運営プロセスの効率化は可能だが多様性、自律性を損ないかねず持続的な成長のためにも改善が必要。
- 修士号や博士号所有者など、専門的知識を有する職員をどのように確保するか。
- 医系グループなどが持っている「わざ」を、他の職員にどのように伝えていくか。
- 各職員の資質と能力を見極めジェネラリストとスペシャリスト双方のバランスのとれた育成が今後も望まれます。

【その他コメント】
- 正規職員が多いということは、裏返して言えば、他大学では非正規・派遣職員や業務委託が担っている業務を正規職員が担当しているということでもあり、日頃どの程度業務改善が意識的になされているかが気になるところである。
- 館長と副館長が着任なさったので、しっかりと役割分担しながら日々の仕事を推進していけると良いと感じます。

２．予算

非常に優れている	
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	●

【優れていると評価できる点】

- 基盤経費が年々削減される中、学生用図書費の特定経費化に成功したことは評価できる。
- 研究開発機能を置き、教員と職員の協働を基盤として図書館の活動や職員のスキルアップを進めている。
- 外部資金などを獲得している点。
- 年々運営費交付金が削減される中、電子ジャーナル・データベース購入経費や、学生用図書費など、きめ細かい事業展開を行うための予算を確保している点が評価できます。

【改善の必要がある点】

- 予算の評価は難しい。電子ジャーナル、データベースの購入費、学生用図書費を特定経費にすることができた点は評価できるが、この経費は基盤経費のように削減がないか不安が残る。研究科の研究費は教員自身が獲得する科研費に依存しているが、附属図書館の予算は、基本的に大学本部から配分されるものである。大学に配分される予算は文科省というよりも財務省の方針によるものであり、現状の考え方では日本の基礎学問は発展できないと推測できるが、実感として気がついたときは既に遅い。しかし、この場で議論しても解決できない。さしあたり資金を得るためには外部資金として、特定基金やクラウドファンディングを立ち上げるべきである。北方資料データベースは良い目安になると感じる。
- 外部資金の獲得にも努力されているところであるが、他大学で実施されているような、特定基金の設置やクラウドファンディング等、自主財源の確保も必要な時期に来ているのではないか。
- 図書館のこうした機能（＊研究開発機能）の活動成果は、道内唯一の国立系総合大学として他大学図書館への情報発信などによって共有化を図るなど積極的に進めて欲しい。
- 合理的な理由があれば、全学共通経費の中から必要な予算を拠出してもらうよう学内関係者にさらなる働きかけを行っていくことが望まれます。そのための図書館全体の学内に向けての広報活動の強化が必要と思われます。

【その他コメント】

・ 九州大学附属図書館のような研究職を時限付きで置き図書館職員が活動することも視野に入れて良いのでないか。
・ H30 年度の館長裁量経費の増額などについて説明を聞き逃したかも知れないので提示された資料だけでは経費執行額についての評価は出来なかった。

３．施設

非常に優れている	
良好である	●●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・ 本館は、平成 26 年度の増築により（書庫部分は構造上、慣れない利用者は迷子になりそうだが)、多様な利用空間が生み出されている。地元住民や観光客の行き来も多いキャンパスの中でも、大学の顔の一つとして存在感がある。
・ 既存施設の改修などにより施設環境の改善が進められている。
・ 自動化書庫やアクティブラーニングフロアなどの学習環境は良く整備されている。
・ メディアコートも非常に興味深い。
・ 自動化書庫の設置により、蔵書収容能力が強化された点。北図書館の西棟増築により、学部生への教育支援のための環境整備が整えられた点が評価できます。

【改善の必要がある点】

・ 自動化書庫は見かけ上素晴らしいが、維持費が思いの外かかるので簡単に高い評価と言いにくい。いずれにしても増加する蔵書を収納する場所を考えなくてはいけない。北大附属図書館の中でメディアコートは特徴的で印象はよく、冬季間でも利用できるようになったのは評価できる。但し、記憶では元積層書庫だった場所で、蔵書を収納する場所がないからと言って、メディアコートを積層書庫に戻すわけには行かないだろう。施設は経年劣化によって改修する必要は必ずあるので予算に照らし合わせるしか手立ては考えられない。
・ 入学後、初めて利用する大学図書館としての北図書館は、さらなる整備が望まれる（もちろん、改修または建替の予算獲得に苦慮されていることは容易に想像できる)。施設整備計画の中では、図書館単独の建物にこだわらず、学生のための機能を重視したプランを期待したい。
・ サービス提供側の職場環境が狭隘で窮屈さを感じた。

・　老朽化（トイレ等も含め）と増加する蔵書への対応。
・　米国など海外の大学の場合、学生のくつろぎ空間にはある程度の数の電源が必ず完備されているので、メディアコートにも電源を増やすなどの工夫が必要ではないかと感じます。

【その他コメント】
・　メディアコートは、他大学では見られない特徴的な空間だが、有効活用されているかどうか、学内（学生を含む）のイベントを積極的に誘致するなどの対応を取られているかどうか、気になるところである。

４．図書館情報システム

非常に優れている	●●
良好である	●●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】
・　平成 30 年度のシステム更新により、クラウドシステムへの移行、蔵書検索・ウェブサイトのレスポンシブ Web デザイン化が行われたことは評価できる。
・　北方資料データベースの資料全文公開は学外研究者の利用など地域貢献度が高い。
・　蔵書検索から目録、雑誌管理、閲覧管理、図書管理まで図書館運営にかかわるすべての業務を一気通貫で行っていること。学内の他部署と連携することにより、利用環境の充実に努めていること。また、NII 事業への協力も積極的に実施している点が評価できます。

【改善の必要がある点】
・　現在特に問題があるとは思えないが､システムは日々更新されるので、取り越されないように常に更新しないと時代に沿ったシステムに移行できなくなる。
・　HUSCAP については「Ⅱ　研究支援　２．北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP)」にも記述したとおり改善が望まれ、さらに研究データ公開との連携、北方資料データベースのデジタルアーカイブ化も含めて考慮する必要があると思われる。
・　学外との連携など、様々な関連システムとの連携を進めるにあたり、情報漏洩やサイバー攻撃等のセキュリティ対策も万全に強化する必要があり、そのための人的体制と予算確保が望まれます。

【その他コメント】

・　クラウドでの運用をしているとのことであるが、どのような問題や課題が出ているかについて、質問をするべきだったと思っている。

５．図書資産の管理

非常に優れている	●●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　不在図書の整理、蔵書の点検が滞ることなく実施できていれば評価できる。
・　亡失除却の実施、亡失に係る手続き・管理体制の見直しについて評価できる。
・　財務諸表に対する資産情報の実態に即した是正の実施。
・　図書館システムの更新と合わせ、不明図書の適切な管理ができるようになったこと、担当の一元化により、業務の効率化が図られたことが評価できる点です。また、計画通り蔵書点検が実施されている点も優れた点だと思います。

６．安全管理

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　防災・減災は、日常の備えと、自分事として捉えることが最重要であるので、北海道胆振東部地震の経験を踏まえて、マニュアルを作成され、職員の意識が向上し、防災訓練も実施されていることは評価できる。
・　サインなどが細かく設置されている。
・　カメラなどのハード面の対策に加え、職員の見回りも行われており、図書館としてできることはやっていると感じた。
・　防犯対策としての巡回を 1 時間～2 時間おきに実施している点。防犯カメラ設置による対策が高く評価できます。

【改善の必要がある点】

- 防犯カメラは重要であるが、それだけでは盗難を防ぎきることはできない。どこの図書館でもデスクの上に財布を置いたまま離席する学生はいる。日本が安全な国のためか安全に対する意識が低いのだろう。職員の巡回も必要だが、防犯カメラを増加することが一つの方策である。しかし、いつも経費が問題になる。
- マニュアルには、地震だけでなく、豪雨や感染症対策等も含めていく必要があると思われるので、いっそうの内容充実が望まれる。また、地震を経験した館としての情報発信力にも期待したい。
- 見学中、表示が必ずしも使い易い、判断しやすいというわけではなかったことから「わかりやすい表示」についてさらなる検討が必要と感じた。
- 盗難や迷惑行為を未然に防ぐための注意喚起のポスター掲示はやむを得ない面もありますが、壁にセロテープで直接べたべた貼り付けるのではなく、美観的な工夫があってもよいかと思います。

７．広報

非常に優れている	●●
良好である	●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

- 次の点について評価できる。
  - 学生に親しみやすいデザインの「楡蔭」を年 2 回刊行されていること（紙媒体としては適切な発行頻度と考えます）。
  - 必要な情報が盛り込まれ、ビジュアル的にも工夫されている「附属図書館年報」を毎年度公表されており、さらに今年度は早々に「新型コロナウイルス対応記録」も別冊として作成されていること。
  - ウェブサイトが、過剰な装飾もなくすっきりわかりやすく、スマホにも対応していること。
  - Twitter が本年 4 月に開設され、硬軟織り交ぜた内容で適度な頻度のツイートによりフォロワーが 1,000 を超える（2020 年 11 月末時点）など、順調に運用されていることなど。
- 様々なサービスが web 上やリーフレットなどで紹介されている。
- 非常にしっかりとした年報などもあり、広報については問題ないと感じる。
- 非常にわかりやすいホームページ、とりわけ英語コンテンツが日本語コンテンツにき

ちんと対応している点は高く評価できます。ナビゲーションもわかりやすく、トップページに今知りたい情報が適切に配置されている点が素晴らしいです。

・　紙の刊行物の見直しを図った点も評価できます。

【改善の必要がある点】

・　経費の問題から附属図書館年報を印刷物から pdf に変更したと思える。記録を残す意味では悪くはないが、利用する人がどれぐらいいるか疑問が残る。中身の構成があまり定まっていないのか、年度ごとの統一感がない。

・　一番利用されるものは、本館・北館ともに「本館・北図書館利用案内」リーフレットでしょうが、楡蔭は学生に取って役に立っていると思うが、実態は把握できない。但し、学生は情報は印刷物よりも HP、スマホを見る場合の方が多いかもしれません。それに合わせて部数も変えていると想像しますが、実態はどうなっているんでしょうか？

・　Facebook については、約 3,000 人にフォローされており、総いいね数が増加しているとのことだが、貴学の学生・教職員の比率がそれほど多くないようにも見受けられ、自己点検・評価報告書の課題欄に書かれている「伝えたい人に伝えたい情報が伝わっていない」媒体の典型のように思われる。リーチ先を分析した上で、場合によってはTwitter に集中して注力するという判断も必要ではないかと思われる。

・　手に取りやすさ、サービスの総合案内などの他言語化（英・中・韓)。

・　予算の項目でも述べましたが、図書館の教育支援、研究支援の重要性の理解を浸透させるために、学内に向けての一層の宣伝広報活動が必要と思われます。

８．点検評価

非常に優れている	●
良好である	●●●
おおむね良好である	●
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　点検評価をあまり頻繁に行うと労力がかかりすぎるので、現状のままで特段問題は感じられない。

・　平成 25 年度以降、3 年ごとに自己点検・評価を実施されていることはとても評価できる。3 年のサイクルで実施し、報告書を公表している大学図書館は少ないと思われる。

・　自己点検評価に加え、数年に一度私たちのように外部からの評価を受けるなど、非常に積極的に取り組んでいると感じる。また、出席した皆さんの熱意も素晴らしく、今

後の改善に大きな期待が持てる。

・　平成 28 年度の自己点検・評価報告に基づき、それぞれの業務について客観的な評価体制の維持に努めていることは高く評価できます。

【改善の必要がある点】

・　前年度に作成された自己点検・評価報告書では、利用者アンケートも実施され、回収率はそれほど高くないものの、傾聴すべき意見・要望も多く、報告書中の課題分析や評価にも反映されたと思われる。しかしながら、今回の委員会での職員との懇談・質疑応答においては、それらを前向きに捉えて改善に取り組もうという意思が伝わってこなかったのが残念である。報告書を作成して終わりではなく、それらを活用する姿勢が各職員に必要と考える。

・　現状と評価と課題について外部者が判断する際に原因と結果といった関連性が見えない項目が散見された。

・　今回、コロナ禍での実施ということで、通常の業務体制とは異なる環境での視察となったことから、想像の域を出ないままに評価を行う面もありました。この点も合わせ次回の点検・評価の際に業務の見直しを検討されることを期待します。

【その他コメント】

・　点検評価のためのアンケート調査内容について自由記述欄に散見される公共図書館に求めるような要望意見があることに驚いた。

Ⅵ　その他

１．感染症対策

非常に優れている	●●●
良好である	●●
おおむね良好である	
不十分である	

【優れていると評価できる点】

・　差し迫った状況に応じて、完全とは判断できないが、可能なことに関して実施したので高く評価するしかない。

・　道内・市内の感染が拡大し、誰も正解を持ち合わせていないという状況下で、苦慮しながらも迅速・臨機応変に対応されてきた様子が、年報 2020 別冊「新型コロナウイルス対応記録」からも、実地視察においても感じ取ることができた。特に、

- ✧ 図書館公式 Twitter 開設、図書館利用ガイドの動画や「図書館情報入門」のオンライン教材の作成、「ぐいぐいプロジェクト」設置などのように、目に見える形の新たな取り組みを次々と行われたこと
- ✧ 予算要求を積極的に行われたこと

が評価できる。

- ・ とくに際立って工夫されている点はなかったがしっかりと実施されている。
- ・ できる限りの対策はしていると感じた。
- ・ 各館のフロアに体表面温度監視カメラを設置し消毒液を完備している点。端末のある場所には必ず消毒液を設置、マスクのない利用者には提供している、また、窓を開けて定期的に換気を行っている点が優れていると評価できます。

【改善の必要がある点】

- ・ 実地視察において、閲覧席等の対策が若干過剰ではないかと思われるところも見受けられた。対面とオンラインのハイブリッド授業に対応するために、学内の状況によっては、図書館が学生の居場所（学内でオンライン授業を受ける空間等）を確保する必要もあると思われる。学内の感染症専門の研究者からも助言を受けながら、状況に応じて対応するのが望ましい。
- ・ 今後気温がさらに下がってくるので、室温の急激な低下による利用者や職員の体調悪化の対応などが必要と思われます。

２．その他

【優れていると評価できる点】

- ・ 〔コンテンツ整備・オープン化以外の研究支援に関する記載欄がなかったため、ここに記述する。〕実地視察でプレゼンのあった、医系グループにおけるシステマティックレビュー作成支援等の意欲的な取り組みについて、高く評価できる。（今後の継続性に向けた課題については、「Ⅴ　組織運営　１．組織」に記述したとおりである。）
- ・ 今回の外部評価に参加していた職員の方の意識が非常に高いと感じた。医系グループなど、いろいろなことを考えながら、何が最善かを考えてしっかりと動いていると感じた。

【改善の必要がある点】

- ・ 職員のキャリア形成にも関わるが、知見がどうしても個人に蓄積されていくため、それを全体に還元し伝えていく方略が求められると感じた。
- ・ 何度も書いたが、図書館員としての仕事はここまで、と変に境界を設けるのではなく、図書館員だからこそわかることを武器に、学内の他の部署と連携し、図書館から主体的に学生支援をしてほしいと感じた。

【その他コメント】

- コロナ禍での評価ですので、現地を見たけれど学生数が少なく、どこまで実情が評価できたか疑問も残ります。
- 「北海道大学概要」の p. 23 に附属図書館に関するページが設けられているが、部局ごとの蔵書数の表でスペースの大半が割かれており、せっかく 1 ページ用意されているのに非常にもったいないと感じる。他部局のように写真を効果的に使うなど、もっと図書館の設備・活動をアピールする紙面にしてはどうか。
- 今回の外部評価で、図書館職員の専門性とは何か、ということをかなり考えました。今後も一緒に考えていければ良いなと思っています。

Ⅱ　記　録　資　料

１．進捗記録

令和２年	
９月　７日	「令和 2 年度北海道大学附属図書館外部評価実施要領」策定。 外部評価委員への委嘱依頼を行った。
９月２４日	日程照会の結果、外部評価委員会を１１月１６日に開催することとした。
９月２９日	開催通知を各委員に送付した。
１０月１６日	外部評価委員会の事前配付資料を各委員に送付した。
１１月１６日	外部評価委員会を開催した。
１２月１４日	「評価シート」様式（電子ファイル）回答締切。
令和３年	
２月１９日	「外部評価報告書」の委員への確認締切。
３月１７日	令和 2 年度附属図書館点検評価小委員会及び第 246 回（令和 2 年度第 3 回）図書館委員会にて、報告書案を審議いただき、了承された。
３月３１日	「令和２年度北海道大学附属図書館外部評価報告書」を発行した。

２．外部評価実施要領

令和２年９月７日

令和２年度北海道大学附属図書館外部評価実施要領

１．目的

北海道大学附属図書館は、令和元年度に実施した自己点検・評価結果の内容を検証し、その客観性・公平性を担保するため、外部有識者による評価を実施する。同時に関係者へのヒアリングや実地視察によって得られた知見を提供いただき、附属図書館のサービス向上と機能強化に役立てることを意図している。

２．実施方法

⑴『令和元年度附属図書館自己点検・評価報告書』等の資料による評価
⑵ヒアリングによる評価（ウェブ会議による場合あり）
⑶実地視察による評価（動画による視察の場合あり）

３．実施視察対象図書館・室

本館、北図書館、部局図書室のうち数部局

４．外部評価委員（５名）※調整の結果変更の可能性あり

⑴教育学習支援に関する有識者
⑵研究支援に関する有識者
⑶地域・社会貢献に関する有識者
⑷国際化対応に関する有識者
⑸組織運営に関する有識者

５．日程

９月上旬　　実施要項の策定、委員選定
９月中旬　　委員委嘱手続き
９月下旬　　外部評価資料を各委員に送付
１０月～１１月　　外部評価委員会を開催（ヒアリング、実地視察）、レポート作成依頼
１２月まで　委員よりレポート提出
１～２月　　事務局にて、外部評価報告書（素案）作成
３月上旬　　外部評価委員会（メール審議を予定）にて、『外部評価報告書』確定
３月下旬　　図書館委員会に報告

３．外部評価委員名簿

委員長

森　　仁　志（もり　ひとし）	名古屋大学大学院生命農学研究科・教授
小　陳　左和子（こじん　さわこ）	東北大学附属図書館・事務部長
下　田　尊　久（しもだ　たかひさ）	藤女子大学図書館情報学課程・特任准教授
金　子　大　輔（かねこ　だいすけ）	北星学園大学経済学部・教授
広　瀬　容　子（ひろせ　ようこ）	株式会社ラピッゾワイド・代表取締役

４．外部評価委員会事前配付資料一覧

１．令和元年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書
（平成 28 年度～令和元年度）
https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/77327

２．北海道大学概要　2019 年度（2019～2020）版
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/information/brief/

３．北海道大学附属図書館年報（2019・2020）
https://www.lib.hokudai.ac.jp/about/publications/#href_nenpo

４．北海道大学附属図書館年報 2020 別冊（新型コロナウイルス対応記録）(PDF)

５．北海道大学附属図書館報「楡蔭」
https://www.lib.hokudai.ac.jp/about/publications/#href_yuin

６．広報誌「リテラポプリ」第 64 号（2020 年春）
https://www.hokudai.ac.jp/pr/litterae_vol.64.pdf

７．北海道大学附属図書館本館利用案内（日本語版・英語版）(PDF)

８．北海道大学附属図書館北図書館利用案内（日本語版・英語版）(PDF)

５．実地視察場所

※　赤枠は実地視察を行った図書館

６．外部評価委員会関係者名簿

◎外部評価委員

森　　仁　志（もり　ひとし）	名古屋大学　教授
小　陳　左和子（こじん　さわこ）	東北大学　附属図書館事務部長
下　田　尊　久（しもだ　たかひさ）	藤女子大学　准教授
金　子　大　輔（かねこ　だいすけ）	北星学園大学　教授
広　瀬　容　子（ひろせ　ようこ）	株式会社ラピッゾワイド　代表取締役

○北海道大学附属図書館

山　本　文　彦（やまもと　ふみひこ）	館長
稲　葉　　睦（いなば　むつみ）	副館長
相　原　雪　乃（あいはら　ゆきの）	事務部長
佐　藤　初　美（さとう　はつみ）	管理課長
米　谷　昌　代（こめたに　まさよ）	利用支援課長
結　城　憲　司（ゆうき　けんじ）	研究支援課長

○「職員との懇談会」参加者及び視察対応者

管理課	城　　恭　子（じょう　きょうこ）	雑誌受入担当係長
	細　井　真弓美（ほそい　まゆみ）	雑誌受入担当係長
利用支援課	髙　野　直　樹（たかの　なおき）	課長補佐
	金　子　　敏（かねこ　さとし）	課長補佐（北図書館担当）
	佐々木　　圭（ささき　けい）	本館閲覧担当係長
研究支援課	松　尾　博　朋（まつお　ひろとも）	課長補佐
	堀　越　邦　恵（ほりこし　くにえ）	研究支援企画担当係長
	平　館　真希子（ひらだて　まきこ）	医学系図書担当係員
	河　野　由香里（こうの　ゆかり）	歯学部図書担当係員

【事務担当】

菊　池　満　史（きくち　みつし）	管理課課長補佐
塚　田　倫　子（つかだ　のりこ）	管理課庶務担当係長

７．外部評価委員会日程

令和 2 年 11 月 16 日（金）9:15～15:25

於：北海道大学附属図書館ほか

	時間帯			場所
①	9:15～9:30	開会挨拶（館長） 委員長選出、参加者紹介、 本日の日程説明	15 分	大会議室 AB
②	9:30～9:50	附属図書館の概況説明（部長）	20 分	
③	9:50～10:30	実地視察①：本館	40 分	
④	10:30～10:45	（休憩）休憩後バス停に移動	15 分	
		（バス）11:00 事務局前発		
⑤	11:10～11:40	実地視察②：北図書館	30 分	
		徒歩で医学部図書館に移動		
⑥	11:50～12:10	実地視察③：医学部図書館	20 分	
		（バス）12:15 医学部前発		
⑦	12:20～13:30	昼食・休憩	70 分	カフェ de ごはん
⑧	13:30～14:30	職員との懇談、質疑応答	60 分	大会議室 AB
⑨	14:30～14:50	講評打合せ	20 分	大会議室 AB
⑩	14:50～15:00	（休憩）	10 分	
⑪	15:00～15:20	講評	20 分	大会議室 AB
⑫	15:20～15:25	今後の予定説明 閉会	5 分	

８．外部評価委員会記録

日時：　令和 2 年 11 月 16 日（月）9：15－15：25
場所：　北海道大学附属図書館

●　北海道大学附属図書館概況説明等

時間：　9：15－9：50
場所：　北海道大学附属図書館本館 4 階大会議室 AB
出席者：
〇外部評価委員会委員：
　森仁志委員長、小陳左和子、下田尊久、金子大輔、広瀬容子各委員
〇北海道大学附属図書館：
　山本館長、佐藤管理課長、米谷利用支援課長、結城研究支援課長
　（陪席：菊池管理課課長補佐、塚田庶務担当係長）
内容：

- 佐藤管理課長の進行で委員会開会。（進行役は委員長が選出されるまでの間）
- 山本館長から委員を紹介。
- 委員長に森委員を選出。
- 北海道大学附属図書館参加者の自己紹介。
- 佐藤管理課長から外部評価の概要、本日の日程の説明。
- 佐藤管理課長から北海道大学附属図書館の概況の説明。

●　実地視察：本館

時間：　9：50－10：30
場所：　北海道大学附属図書館本館
出席者：
〇外部評価委員会委員
〇北海道大学附属図書館：
　説明：髙野利用支援課課長補佐
　（随行：米谷利用支援課長、菊池管理課課長補佐）
内容：

- 髙野課長補佐の案内で館内を実地に視察。
- 経路：オープンエリア（南棟２階）→閲覧室（南棟３階）→自動化書庫（地下）→カウンター前（２階）→メディアコート（２階）→書庫（３階）

● 実地視察：北図書館

時間：　11：10－11：40

場所：　北海道大学附属図書館北図書館

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

説明：金子課長補佐（北図書館担当）

（随行：佐藤管理課長、菊池管理課課長補佐）

内容：

- 金子課長補佐の案内で館内を実地に視察。
- 経路：1 階ロビー→カウンター前（東棟２階）→アクティブラーニングフロア（西棟２階）→グローバルフロア（西棟３階）→サイレントフロア（西棟４階）→閲覧室（東棟３階）→メディアルーム（２階）

● 実地視察：医学部図書館

時間：　11：50－12：10

場所：　医学部百年記念館 2 階小会議室

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

説明：平館医学系図書担当係員、河野歯学部図書担当係員

（陪席：佐藤管理課長、菊池管理課課長補佐、小林医学部図書担当係長）

内容：

- 河野係員から医系グループにおける教育・研究支援の実施体制と「30 分講習会」について、平館係員から文献検索相談・代行サービスについて説明があった。

委員）医系グループにおける教育・研究支援の実施体制に関して、他の部局でも教員から同様の希望があるだろうから、グループ全体でこういう企画があればよいと思う。

委員）文献検索相談・代行サービスに関して、どのくらいの期間で行っているのか。

北大）依頼された先生の希望に合わせてスケジュールを組んで行っている。

委員）文系であれば、文献検索も自分で行うが、理系の場合、文献を探す部分は代行してもらい、それを元に新しい論文を書くということになるのか。

北大）システマティックレビューについては、図書館職員は該当分野の専門家ではないがために、収集するデータの客観性が評価される。また文献データベースの扱いにも慣れていることから、必要なキーワードを用い、文献を網羅的に集めてくれることが期待されている。

● 職員との懇談・質疑応答

時間： 13：30－14：30

場所： 北海道大学附属図書館本館 4 階大会議室 AB

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

佐藤管理課長、菊池管理課課長補佐、細井雑誌受入担当係長、米谷利用支援課長、髙野利用支援課課長補佐、金子利用支援課課長補佐、佐々木本館閲覧担当係長、結城研究支援課長、堀越研究支援企画担当係長、平館医学系図書担当係員、河野歯学部図書担当係員

（陪席：塚田庶務担当係長）

内容：

－ 森委員長の司会で職員と懇談(質疑応答を含む)。

委員）利用者アンケートでの意見には対応のしにくいものも多いと思うが、具体的に対応した事例があれば教えてほしい。例えば、座席数が少ないという意見に対してはどのように対応しているのか。

北大）座席数が少ないという意見だが、実際には満席が続いているという印象はない。隣の席に座られたくないという学生の心理もあるかもしれないが、面積は限られているので、そのなかで対応したい。

委員）安全管理意識が高いと思われる国からの留学生すら日本の大学内では机に私物を置いたままにしている状況がある。利用者が安心しきっているようだが、どのような盗難対策を行っているか。

北大）本館では 2 時間ごとに巡回をし、スマホ等を机上に放置している場合は注意書きをおいている。北図書館では 1～1 時間半ごとに巡回し、財布等が放置してあれば、注意書きを置いた上でカウンターに回収している。これは学生の出来心を防ぐ意味もある。

委員）トイレに対するいたずらにも苦慮しているのだが、北大ではどのように対応しているか。

北大）トイレに対するいたずら行為は犯罪である旨記載の掲示を行っている。

委員）同規模の他大学と比べて、常勤職員の割合が高いが、大学本部から人員削減の指示はないか。

北大）現在のところはない。今後は不明である。

委員）時間外開館は業務委託とのことだが、学生アルバイトはあえて使っていないのか。

北大）時間外開館を学生アルバイトのみとした場合と業務委託とした場合のコストを比較し、業務委託とした。なお、ワークスタディとして学生アルバイトの雇用はしている。

委員）部局図書室を研究支援の枠組みとして整理・組み込んだのはよいことだと思う。研究支援のノウハウの継承や専門性の向上、キャリアアップのための人事異動についてどのような考えがあるか。

北大）専門性を向上させることができるよう、できる限りの人的配置を行っているつもりである。試行錯誤している部分もあるが、課題は把握している。

委員）部局図書室での研究支援について、持続可能な仕組みにどのように転換していくのか。また新型コロナウイルス対応で、どのような知見を得たか。

北大）持続可能となるような仕組みとしては、日本医学図書館協会の講習会への参加や、先輩・同僚との情報共有により、ノウハウを継承するようにしたいと考えている。

北大）新型コロナウイルス対応で得られた知見としては、利用ガイダンスをオンラインで行うことができたことが挙げられる。DX（デジタルトランスフォーメーション）により、非来館型利用のノウハウを培っていきたい。

委員）学習支援はどのようにしていくか。ラーニングコモンズを活かす仕組みや仕掛けとしてどのようなことを考えているのか。

北大）図書館主体ではなく、ラーニングサポート室と連携して行っている。図書館は場所の提供、ラーニングサポート室は企画し、学生への指導を行う、という分担としている。

委員）医系グループの取り組みを全学に波及させる仕組みがあるとよいのではないか。

北大）医学系分野は日本医学図書館協会主導のもと、講習会等が充実しており、また分野としてまとまりやすい。一方、例えば工学系はかなり幅広い分野にわたるため、単純に適用するのは難しい。

委員）図書館の仕事、専門性とは何か。今後図書館職員であるためにはどのような専門性が必要と考えられるか。

北大）自分たちで考えて切り開く力だと考えている。

委員）北方資料やアイヌ関係資料等貴重な資料を社会にどのように共有していくか。

北大）北方資料データベースでの公開や国文学研究資料館の電子化事業への参加等を通して、利用できる全文データを増やしていきたい。将来的には JAIRO Cloud に搭載し、広く利用に供せるようにもしたい。

委員）印象としては地に足をつけ、利用者のニーズに沿った活動をしていると思う。

委員）質問が 3 点ある。まず、英語多読という取り組みはよいことで、これでインプットを図ることができるが、アウトプットについては、どのような仕掛けがあるのか。

北大）アウトプットの取り組みについては今後検討したい。

委員）他大学との連携で、アジア地域では北京大学、ソウル大学と地域を代表する大学との協定を結んでいるのはよいが､欧米の大学とは日本語資料を扱うライブラリアンを通じたつながりが多いようで､欧米の大学とも地域を代表するところと連携を図った方がよいと思うがどうか。

北大）今後検討したい。

委員）医系グループでの取り組みについて、2013 年から 30 件ということだが、これは多いのかどうか。

北大）依頼には波があり、昨年は少なかったが、今年は少し立て込んでいる。依頼が続くと対

応が難しい場合がある。

委員）院生からのアドバイスは参考にならないのか。院生をチームに入れるということも考えられるのではないか。

北大）検索式に関するレクチャーなど準備することが多い。

委員）利用者アンケートに戻るが、何か意見に対応したものはあるか。

北大）開館時間に関しては、今後はむしろ減らす方向で検討することになるかもしれない。利用の実態に合わせて、開館時間を検討するようにしたい。

● 講評打ち合わせ

時間： 14：30－14：50

場所： 北海道大学附属図書館本館 4 階大会議室 AB

出席者：

○外部評価委員会委員

● 講評

時　間：15：00－15：20

場　所：北海道大学附属図書館本館 4 階大会議室 AB

出席者：

○外部評価委員会委員

○北海道大学附属図書館：

山本館長、稲葉副館長、佐藤管理課長、菊池管理課課長補佐、米谷利用支援課長、髙野利用支援課課長補佐、金子利用支援課課長補佐、結城研究支援課長

（陪席：塚田庶務担当係長）

内容：

－ 森委員長より講評の発表

委員長）全体的には順調であるといえる。講評ということであるが、まとめるのがむずかしく、各委員からの意見・感想や質疑で代えさせていただきたく、了承願いたい。

委員）オープンデータやオープンサイエンスに関して、手書きデータのようなものはどう扱うのか。

北大）この分野については、緒についたばかりで、まだそこまでには至っていない。図書館だけではできないので、他の研究支援系組織と協力する必要がある。また強制的にできるものではない。使いやすい、あるいは現在使っているプラットフォームを活用してもらいたいと考えている。論文公開のノウハウはあるので、その点では協力できると考えている。

委員）「研究支援」を課名に取り入れるなど業務に向き合う姿勢には注目している。職員をどのように活かしていくか、これまでの人事異動の在り方では難しいのではないか。学生や院

生、留学生も巻き込み、もっと一緒にやっていくことを打ち出してもよいのではないか。

委員）学習支援に関して、自己点検報告書では、いくつかの WG が終了しているが、これらが、どのような評価・評定のもとで活動を終了し、業務に落とし込まれることになったのかが、報告書からは読み取れなかった。

委員）社会貢献に関して、各種のイベントはどのような方向性で行っているのか、全体の枠組みがどのようにあって、どのようなイベントを行っているのかがよく見えない。

委員）学習支援について、図書館とラーニングサポート室との役割を分けているとの説明があったが、図書館も主体的にかかわるべきだと思う。図書館から見えることもあると思う。連携して事を行うということが重要だ。

委員）研究支援について、医系グループの取り組み自体はよいが、その中にとどまっている印象がある。持続可能性や全学への波及、属人的によらない方法などを考えるとよいのではないか。

委員）図書館の国際化については、欧米の大学図書館との連携について、従来のつながり重視の企画からもう一歩踏み込んだものとしてほしい。

委員）多読の企画自体はよいと思うが、英語のインプットに加えてアウトプットの取り組み・仕掛けを考えると効果的ではないかと思う。

９.「評価シート」及び記入要項

令和２年度北海道大学附属図書館外部評価
「評価シート」のご記入について

・ この「評価シート」は、外部評価委員の先生方に、外部評価委員会（11 月 16 日）にご出席いただいた後、ご提出を願うものです。

・ 評価の対象期間は、平成 28 年度から令和元年度までを中心とし、さらに現在（令和 2 年 11 月）までの活動状況に対する評価を加味してください（新型コロナウイルス対応含む）。

・ 評価項目は『令和元年度北海道大学附属図書館自己点検・評価報告書（平成 28 年度～令和元年度』の構成に即しており、20 項目あります。

・ 「評価」は、４段階の評語の選択肢から該当するものを必ずひとつ選んでチェックしてください。選択肢は、以下のようにお考えください。

非常に優れている（十分な活動がなされている）
良好である（改善の余地がある）
おおむね良好である（改善の必要がある）
不十分である（大幅な改善が必要である）

・ 「コメント」には、評価のポイントや判断の根拠となった点をご記入ください。特に早急に改善することが望ましい点の指摘、改善のための助言なども併せてご教示ください。「コメント」は、各評価項目についてひとつ以上、できる限りご記入くださるようお願いします。欄を拡張してご使用いただいても結構です。

・ 「評価シート」はメール添付にて、令和 2 年 12 月 14 日（月）まで下記担当宛にご提出ください。また、評価にあたり、追加の資料を必要とする場合やご質問がある場合は、随時担当にご連絡ください。

本件担当・ご提出先：
北海道大学附属図書館 管理課
課長補佐　菊池満史
TEL:(011)706-2564 / FAX:(011)747-2855
E-mail: khosa@lib.hokudai.ac.jp

令和２年度北海道大学附属図書館外部評価「評価シート」

委員氏名（　　）

Ⅰ　教育学習支援

１．利用者サービス

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．蔵書管理

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．学習環境

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅱ　研究支援

１．学術研究コンテンツの整備

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．オープンサイエンス

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅲ　連携

１．学内

評価

- □　非常に優れている
- □　良好である
- □　おおむね良好である
- □　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．学外

評価

- □　非常に優れている
- □　良好である
- □　おおむね良好である
- □　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅳ　社会貢献と国際化

１．地域・社会貢献

評価

□　非常に優れている
□　良好である
□　おおむね良好である
□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．国際化への対応

評価

□　非常に優れている
□　良好である
□　おおむね良好である
□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

Ⅴ　組織運営

１．組織

評価

- □　非常に優れている
- □　良好である
- □　おおむね良好である
- □　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．予算

評価

- □　非常に優れている
- □　良好である
- □　おおむね良好である
- □　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

３．施設

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

４．図書館情報システム

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

５．図書資産の管理

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

６．安全管理

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

７．広報

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

８．点検評価

評価

□　非常に優れている

□　良好である

□　おおむね良好である

□　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

ＶＩ　その他

１．感染症対策

評価

- □　非常に優れている
- □　良好である
- □　おおむね良好である
- □　不十分である

コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

２．その他

上記の項目以外に何かございましたらご記入ください。

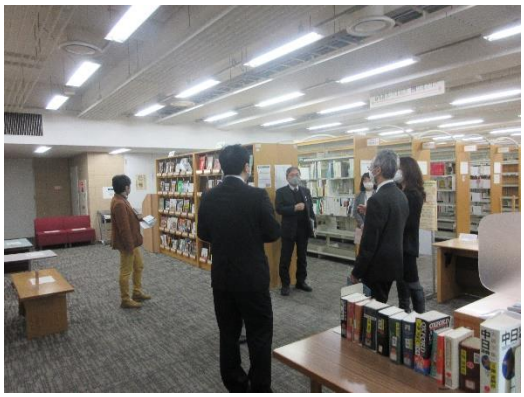
コメント

【優れていると評価できる点】
【改善の必要がある点】
【その他コメント】

１０．写真

山本館長より開会挨拶

概要説明



実地視察：本館①

実地視察：本館②

実地視察：本館③

実地視察：北図書館①

実地視察：北図書館②

実地視察：医学部

職員との懇談・質疑応答①

職員との懇談・質疑応答②

令和２年度
北海道大学附属図書館外部評価報告書

令和３（2021）年３月発行

編集・発行　北海道大学附属図書館

〒060-0808　札幌市北区北８条西５丁目

EMail　shomu2@lib.hokudai.ac.jp

電話　011-706-2967